

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	40 福岡県
市区町村名	40212大川市
自治体区分	都道府県

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
40212大川市	②学校と地域の課題	02 青少年の健全育成	本市では、これまでの「保幼小中連携」事業を受け、令和2年度より「校種間連携教育」事業を立ち上げて取り組んでいる。これまでの「保幼小中連携」事業の成果を活かした内容を盛り込み、さらに市内にある高校や大学との幅広い交流を通じた学びの中で、青少年の健全育成を目指している。しかし、各地域の特色ある取組があるものの、その地域の中だけでの取組にとどまり、市全体への広がりとして生かされていない現状が見える。市内小中学校の取組と高校や大学の活動を連携を推進していきたい。	全ての地区（小学校区及び中学校区）に地域学校協働活動推進員を配置するとともに、複数名体制の地区を増やすことで地域学校協働本部同士のつながりを密にし、あわせて高校、大学との交流も活性化させていく。 例…高校生による挨拶運動、大学生による専門的指導（スポーツ、音楽等）、高校生及び大学生による中学生への受験対策講話等々	令和7年度は、前年度に引き続きすべての地区（小学校区及び中学校区）で地域学校協働活動推進員を委嘱するとともに、複数名体制の地区を増加させることができた（R6：4地区→R7：7地区）。個別の声かけが有効であったため、今後も継続して取り組む予定である。一方、推進員は充実しつつあるものの、校種間連携を活性化させるまでには至っていない。推進員連絡協議会での啓発等、さらなる取組が必要であると感じている。	小学生、中学生、高校生、大学生の交流により、人との絆づくりにつながっていく。	校種間（保幼小中高大）連携における交流内容や件数	1	件	3	1	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 地域学校協働活動推進員の複数名体制の地区を増加させるにあたり個別の声かけが有効であったため、今後も継続して取り組む予定である。一方、推進員は充実しつつあるものの、校種間連携を活性化させるまでには至っていない。推進員連絡協議会での啓発等、さらなる取組が必要であると感じている。	市ホームページ
40212大川市	③学校と家庭の課題	01 家庭等における学習習慣の定着	本市では、6月と11月を家庭教育強調月間とし、取組の一つにアンケートを実施している。家庭学習についての項目では、児童及び生徒ともに内容及び実施時間についての課題が見られる。保護者の感想を見ても、学年が上がるにつれて家庭学習に対する心配の声が多くなっている。	放課後算数教室については、30時間/年を全小学校で実施することを目指しているが、いまだ達していない小学校が数校存在する。令和7年度は、全小学校で数値達成できるよう年度当初から声掛け等を行い、学びの場の確保に取り組む。 また、今年度のおおかわ寺子屋については参加者を増加させることができた。さらなる伸長を目指し、夏季休業期間中に行うサマースクールや定期試験前に行う試験対策講座などを実施することで、事業拡大に努める。	放課後算数教室については、学校に委託して行っているが、学校の多忙化などにより、実施時間・回数が目標に届いていない現状がある。教育委員会として、必要に応じ助言・支援等を行っていく。	小学生、中学生の学力及び学習意欲の向上、または学校のカリキュラム以外で日常的に学習する児童生徒が増える。	家庭教育強調月間時のアンケートによる児童生徒の学校外の学びの内容や時間の充実	79	%	80	76	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 放課後算数教室については、学校に委託して行っているが、学校の多忙化などにより、実施時間・回数が目標に届いていない現状がある。教育委員会として、必要に応じ助言・支援等を行っていく。	市ホームページ